

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101744		
法人名	アサヒ電器株式会社		
事業所名	グループホーム 陽だまりの里		
所在地	〒030-9943 青森市幸畑阿部野163-331		
自己評価作成日	令和元年11月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

八甲田山のふもとのリンゴ、ブドウ畑がある自然豊かな環境の中で気持ち豊かに「楽しく・その人らしく・安心・安全・健康・生活の継続」の理念のもとに毎日生活を続けています。皆でお花見などに出かけ美味しい物を食べ、外の空気を存分に吸う機会を作り、いい時間、いい一日にする事を大切にしています。又夏祭りでは家族、地域、包括支援センター、他グループホームの方たちと一緒に職員の手料理、工夫を凝らした出し物などで、楽しんで交流し、コミュニケーションの場を作っています。認知症の学習にも力を入れ、学習療法を行い、職員全員が学習療法士として、認知症の悪化防止、コミュニケーション向上に取り組んでいます。又認知症専門士を中心に、地域の文化祭に皆で作った作品を出品し、その掲示してある作品を見に行き、地域交流を行ってのしんでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和元年12月12日		

室内は、木のぬくもりが感じられるグループホームであり、季節を感じさせる作品が掲示されている。窓からは山など自然豊かな風景を楽しむこともできる。この様な環境の中、「楽しく、その人らしく、安心・安全・健康、生活の継続」という理念の基、利用者個々に合せた日々の支援が実践されている。また、希望者には学習療法を行っている。夏祭り等を通じて地域との交流も図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域でのグループホームとしての役割を考え、話し合い、開設当初の理念を継続し、常に念願に入れ介護の実践のよりどころとしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた「楽しく、その人らしく、安心・安全・健康、生活の継続」という理念の基、日々の介護が実践されている。理念は、正面玄関、スタッフルーム等各所に掲示されており、会議開催前にも確認・共有がされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初から、町内会に入会し、年に2回の総会や、年間行事に参加している。ホームの夏祭りに参加してもらい、女性会の方々には、誕生日会等にボランティアで参加頂き踊りを披露してもらっている。	町内会とは、良好な関係が築かれており総会の出席や夏祭りへの出店参加を行っている。グループホームが主催する夏祭りには、近所の方や町内の婦人会の方々が参加するなど双方の行事等で交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや誕生会に踊りを披露してもらったり一緒に食事をする事により、認知症について理解を深めてもらい、また、相談なども受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、近況報告を行い、女性会の会長や包括の出席して頂いた方の意見や、家族の想いを聞き、介護に活かしている。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、町内会長や婦人会、地域包括支援センター職員、家族、利用者が出席している。会議内で家族からの要望で外出企画が実現するなど意見が反映されている。会議録は玄関前にも置かれており、いつでも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会の結果や、利用者状況を報告し確認を取っている。また、生活保護のことで分からない事があれば、その都度相談している。	日常的に相談できる関係が構築されており、必要に応じて生活保護制度や成年後見制度等の相談を行っており連携実績もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日常的に施錠せずに、家族の方や近所の方がいつでも訪問出来るように玄関を開けている。全スタッフが身体拘束について勉強し、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化のための指針が策定されており、スタッフルームの掲示と内部研修で共有が図られている。身体拘束が必要な場合は、家族と協議し同意書にて確認されている。身体拘束委員会も設置されており3ヶ月に1度委員会が開催されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修会に参加し、皆で何が虐待になるのかを考えたり、スタッフ間で意見交換をして、常に虐待防止の意識を高く持つようしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいるので、実際に後見人と話す機会やその場面を見る機会があり、理解を深め、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始の契約の際には、利用者家族様や本人の不安や希望・意見を聞きながら、時間をかけ説明を行い理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族意見箱を設置している。また面会に来た時には、状況や希望等を話せる、関係作りを行っている。	正面玄関に意見箱を設置しているが、面会時の家族との会話の中から意見や要望、利用者の嗜好等を聞き日々の支援に反映している。また、運営推進会議の機会を利用して外部者へ意見を表す機会が設けられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが意見や提案等を出しやすいように、スタッフと積極的にコミュニケーションをとり、話しやすい関係を保つよう心掛けている。	代表者が、前期・後期に開催される会議に出席し職員の「働きやすい職場」に向けての意見を聴取し入浴リフトの導入や清掃専門職員の雇用等、意見の述べやすい環境づくりや職員の意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はスタッフの良い所を認め、苦手なところを克服できるよう相談にのれるよう心掛けている。また、勤務状況など困っている事がないかも聞けるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はスタッフそれぞれの能力にあった研修などに参加出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との親睦会へ参加し、意見交換を行う事で親睦を深めてもらいサービス向上に活かせるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は不安も多いと思うので、話しやすい環境とを整え、小さなことにも耳を傾け、気軽に話ができるような関係性を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始の際には、家族から本人の現状や不安に思っている事を詳しく聞き、家族から信頼してもらえるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの情報をスタッフ間で共有し、何を一番に支援して行くかを話し合い、分析した上で適切なケアが出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を一緒にしている、という事を大事にし、入居者様の事を親身になって考え、助け合いながら過ごす事で信頼関係が深まるように心がけて生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月のお便りにて、ホームでの状況をお知らせしている。家族と一緒に通院したり、美容院に行ったり、ドライブやランチに出掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より利用している美容院へ出かけたり、遠方の方からの贈り物があつた時には、電話や手紙でお礼が出来るように支援している。	利用者からの要望があれば、必要に応じ家族と協力し、墓参りや馴染みの美容院へ出かけたりしている。利用者に贈り物が届いた際は、お礼の電話等の支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の普段の様子や会話から関係性を見極め、馴染みの関係が作りやすいように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて、家族の相談にのり、介護サービスの説明をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ち、希望、想いを重視した上で検討し、スタッフ間で共有して統一した介護に取り組んでいる。	日常の会話から聞き取った要望は申し送りで共有されている。認知症の症状を4ステージに分け、症状に合わせた対応方法が掲示され、一人ひとりの思いや意向の把握の取り組みがされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や、大切にしてきた事などを聞き取り、把握して介護に活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活を共にする事で、利用者様それぞれの生活のペース、心身の状況、出来る事出来ない事を把握し、記録に残すことでスタッフ間で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族や必要な関係者からの意見や申し送り等の記録を基に現状を把握し、話し合いで出た意見やアイデアを反映させた介護計画を作成するように心がけている。	本人・家族や医療関係者と必要に応じて連携を図り、担当者会議を開催し介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活や心身の状況をよく観察し、どのように支援したか、結果どうだったのかを記録、スタッフ間で共有し計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良や症状の変化により、家族の方に相談しながら専門医への受診等に行ったり、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園や女性会には誕生会などに参加いただき、踊りを披露してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人のかかりつけ医の受診に付き添い医師に状態報告・説明しながら、必要に応じた病院を紹介してもらい、家族と相談しながら入院や治療を行っている。適切な医療が受けられるように支援している。	検査の立ち合い等は、家族の協力を得ながら行っており、検査結果等を共有している。かかりつけ医に関しては、家族と相談の上、選定しており必要に応じ往診の対応も可能である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かな身体状況・精神状況などを観察し、ホーム内の看護師に状態報告を行い、家族と相談しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、訪問し、本人や家族を励まし、早期離床回復し、退院できるように病院関係者と情報交換を行っている。退院後の生活も安心して過ごせるように相談や連絡をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは早い段階で認知症の重度化、終末期の過ごし方について、ホームでの出来る方法について説明しながら話し合い、決まった方針を共有し、医療関係と連携し支援している。	終末期の看取りについての指針が示されており、マニュアルも整備されている。本人の状態の変化に合わせて家族と相談しながら、その都度同意書を交わし方針を決めている。また、医療機関とも連携し支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは、普段との違いをいち早く気付けるように日々の変化を観察し共有している。起こりうる急変に備えての対応を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消火・避難・災害時の訓練や消防安全センターの方に訓練を見てアドバイスして頂いている。運営推進会議等でも意見を求め参考にしている。	年2回夜間想定防災訓練が実施されている。マニュアルも整備されており、緊急連絡網には、地域の方も入っており連携が図られている。その他に停電等の2次災害を想定した炊き出しも訓練の一環として実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう気をつけ、思いやりある介護が出来るようにスタッフ間でも注意し合っている。	プライバシー保護に関するマニュアルが策定されており、スタッフルームに掲示することで共有が図られ、確認もされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの思いや希望を話しやすいような関係性が保てるように心がけて接している。又、自己決定が出来るように、本人の気持ちと言えるような会話を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切に介護できるように、一人一人に合わせた時間の取り方を工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	状況にあった身なりが出来るように、本人と一緒に考えたり、好みを生かしたアドバイスをしたりして、楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話でそれぞれの食の好みを聞き、献立に反映させている。又、近所で採れた野菜を使い季節を感じてもらえるようにしている。一緒に楽しみながら、準備や後片付けを行っている。	面会時に家族から嗜好の情報や日常の支援の中から食べ具合等を見極め、メニューづくりに反映されている。また、近所からの差し入れの旬の野菜を活用することで、季節を感じてもらう事を意識し、食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った摂取量や好みを把握して食事を提供している。水分補給も十分に摂れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の口腔状態や能力に合わせ、声かけを行ったり、見守りや介助を行っている。清潔が保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄チェック表をつけて排泄パターンを把握し、トイレで排泄が出来るように声をかけたり誘導してなるべくオムツを使用しないように支援している。	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が認知症に悪影響を及ぼすことを認識し、排泄状況をテックしている。献立に野菜を多く取り入れたり、水分不足にならないように気を付けたり、運動不足にならないように体操を行い予防に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は月曜日と金曜日と決めてはいるが、本人の体調や希望により、いつでも入浴できるようにしている。	週2回の入浴だが、本人の要望や体調に合わせて曜日に関係なく柔軟な入浴支援が行われている。シャワー浴・足浴も希望があれば実施されており、薬用の入浴剤を使用することで、皮膚の乾燥予防にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調や体力・生活習慣を考慮して就寝していただいている。落ち着いて安心して眠れるような雰囲気作りに気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に正しく服薬出来ている事を確認し、薬の副作用や用法・用量を理解できるよう、それぞれの服薬している薬の一覧を見やすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日生き生きと張りのある日々が過ごせるように、出来る事を手伝ってもらって事で役割を感じてもらい、趣味を生かしての作品作りを行ってもらったりして楽しんでもらえるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴をしたり、散歩したり、花見や紅葉狩り、天気の良い日には外に出てご飯を食べたり、地域の祭り等に出掛けたりと、外出する機会を設けるようにしている。	天候に応じ、希望があれば昼食を外で食べたり、近くの公園に散歩に出かけたりしている。また、季節ごとに花見や祭りに出かけている。近所のコンビニへの買い物等の対応も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、自己管理の出来る方には少額でもお金を所持し管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおり、家族からの電話にいつでも出られるように支援している。知人からの贈り物には、お礼の電話が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、不快にならないように、空調や明るさに気を付け、音によって不穏にならないように気を配っている。又、季節を感じられるような植物を飾ったりしている。	季節を感じられる作品の展示や、空間全般が木目調で、窓からは雄大な自然の景色が一望できるなど居心地のよい環境づくりの配慮がされている。また、湿度・温度管理の配慮も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が眺められるところにベンチを置いて、一人でも馴染みの方同士でも過ごせるようにしている。玄関エントランスでも過ごせるように椅子を置いたり、危険がないか見守られるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、使い慣れたものを持ってきてもらい、安全かつ居心地よく暮らせるように工夫している。	居室内は、パネルヒーターが設置されている。冷房もあり居心地の良い環境である。ベッドが設置されており、ご本人の状態に合わせ、家具調ベッドから介護ベッドまで柔軟な対応がされている。仏壇やテレビも持ち込まれており、個性豊かな空間づくりの工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のないバリアフリーの造りで、トイレ・廊下・浴室には手摺りを設置し、安全に散歩や移動が出来、自立した生活が送れるように工夫している。		